

---

# 弱者のタクティクス

いぬ山ねこ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

弱者のタクティクス

### 【Nコード】

N3355A

### 【作者名】

いぬ山ねこ

### 【あらすじ】

魔法ってなんでしょう？夢をかなえる希望の力？・不可能を可能にする力？・現実主義者のいぬ山ねこが紡ぐ自分勝手な結論・・・

## FILE 0：プロローグ（夢）（前書き）

シャー！エンジンあつたまつてきた！暴走して核融合しちゃったけど・  
・（＜――＞） 頑張りますのでヨロシクお願いしますm（――）  
m

## FILE 0：プロローグ（夢）

エドワード・ヒルトンの場合

それは、いつもと同じ夢だった．．

あまりに代わり映えしないから僕は夢だと知っている．．

精霊はいつだって僕との契約を拒む．．

「キミは先天的に魔力の潜在保有量が少ないんだ．．契約に必要な  
微少な魔力すら持っていない．．

だからどんなに頑張ったって魂に契約を書き込めないんだよ．．  
生まれ持ったの個性だから私にはどうしようもない．．

ごめんね．．」

そう言って美しいトンガリ耳の精霊は消える．．

ショックで放心する僕に父は上辺だけは優しく、ポンと軽く僕の肩  
を叩き

「大丈夫さ．．魔法なんて無くとも生きていけるよ」

と、言う．．

父は演技が下手なので

失望を色濃くたたえた表情までは隠せない．．

その日から僕は父のタメ息と付き合って生活する事になった．．

僕の部屋の僕のベットで僕は目を覚ます．．

心臓が早鐘をうつ．．

動悸に比例して僕の体は汗でベタベタだった．．

きつと最近、父が死んだからこんな夢を毎晩見るんだろう

タメ息ばかりつく父が死んで悲しかったけど．．

内心、ホットしてる自分がいて．．

罪悪感で一杯だから．．

素人の自己分析なんてくだらない・・・そう結論づけ

ノドの渴きを潤すために枕元に昨日、用意した水差しの水をコップにナミナミと注ぎ一気に飲む

目覚まし時計の文字盤を確認する

朝の五時四十七分だった

かなり早い

アラームを解除して、気持ち悪い寝汗を熱いシャワーで洗い流すためにトンテントンテンと階段を降りる・・・

エリザ・ナイトレイの場合

優しい笑顔が魅力的なトキムネさん  
飲んだくれで赤っ鼻のトンガ爺さん

7人のお母さんで恰幅がいいマーテルさん

赤いおさげ髪がチャームポイントな大親友のアン

そして・・・私に魔法を覚えてくれたサリマン先生・・・皆、楽しそうにそれぞれの日常を送っている。

素朴で綺麗で素敵な

絵の様に美しい、イザミ村で・・・

きつと夢だ・・・

私は知っている・・・

だって、イザミ村はもう

何年も前に地図から消えたんだから・・・

全部、私の所為だ・・・

私の魔力が暴走したんだから・・・

だけど私は今も生きています・・・

サリマン先生が助けてくれたから・・・

先生が犠牲になってくれたから・

だから、死にたくても死ねない

私の命は助けてくれた

先生のモノだから

涙が耳の方へ一筋の跡を残していた

私は目を覚ます・

汚い街角で・

浮浪者の私がまさか女だとは、きっと誰が見ても気付かないだろう・

・

変色したボサボサの髪

親友のアンが綺麗だねって誉めてくれた金髪は今は何色だろうか？  
薄汚れてしまった顔

男物の所々ほころびたコート

くたびれたサイズが大きすぎる革靴

自嘲気味に笑ってから

いつも私は右手の手のひらをコメカミにあて魔法で自殺しようか迷う・

だけど・脳裏に焼き付く先生の最後の言葉がいつも私を止める・

「エリーは何も悪くないんだよ・」

私は耐えられなくて嗚咽を洩らす・

お腹が減っていても涙はいくらでも出てくる

何だか、不思議だった・

死にたいくらい孤独で淋しいのに・

私は時間を垂れ流して生きている。

## FILE 0：プロローグ（夢）（後書き）

もしも、この魔法世界で疑問に思ったことあったら質問お願いします  
すm（――）m・・釈然としない事や漠然とした事が苦手なんで極  
力、物語の中でお答えします！

**FILE 1：当主様はおねータマ（前書き）**

人格破綻者がイッパイ出てきます！



## FILE 1：当主様はおねータマ

ヒルトン家は社交界の華だった

由緒正しき血統を祖にもつ名門の中の名門

血を遡れば誉れ高い円卓の魔法使いで有名な

チャールトン・ヒルトンに辿り着くのだから・・・

しかしそれも過去の栄光・・・

没落しまくり・・・

積み上げれば上がるだけ些細な振動で崩れるものだ

ジエンガみたいにさ・・・まあ結果に適当に理由づけただけだから説得力ないけどね・・・

だから、今はただ広いだけが取り柄の耐用年数大丈夫？的な

ボロ屋敷と過去の血統契約の精霊だけが財産だ

馬鹿アホ先、先代がホテル業なんかに手を出したのがそもそもの発端・・・

ヒルトンなんて響きのホテルが繁盛するはずがネーよ

癪にさわるから肖像画の目に画鋏さしてやったよ・・・けけけ・・・はあー

僕の父は過去の栄光を取り戻そうと悪戦苦闘していた

だから、英才教育を僕に強要し

僕の脳ミソに魔法理論をアホみたいに詰め込んだ・・・

幼少の頃よりの一流教育のおかげで絶対音感ならぬ

天才のステータスの一つとして有名な絶対魔法感を身につけ

父の計画がまんまと成功し万万歳かと思つた矢先に

精霊のキミは先天的に・・・の殺しもんく

ボクノ、セイシュンハ、ナンダッタノデシヨウカ？

知ってます？

人格形成って幼年期の経験が、かなり重要なんですよ！  
だから、僕はひねくれました！

「どうしたの愚弟？

ボーっとしちゃって・・

もしかして！思春期特有の悶々としたエロい事考えてた？

まっ・・まさか、実の姉である私をてごめにしようって画策してたの・・（汗）確かに私は女神ほども美しいけど越えちゃならない一線があるのよ！

近親相姦はマズイでしょ」

朝一でナルシストの淫魔を相手にするのは胃にもたれる・・・

この変態は僕の姉

アリサ・ヒルトン

僕とは比べものにならないほど馬鹿で低俗的だが潜在魔力保有量はそこそこだ

ってか、悔しいけど超一流かも・・

カビが発生するほど古い考えの父は形ばかりの当主の体裁にこだわ  
り男の僕を溺愛した・・

その結果、純真で可愛い幼いアリサちゃんは  
かまって症候群を発病！

一風変わった自己表現で愛をもとめましたとさ  
めでたし、めでたし・・

一時期は僕の事を敵視していたが例の精霊が・・・の事件で父に愛  
想つかされた僕を見て同情プラス 父の野望が姉に飛び火・・

期待される事がどんなにシンドイか知った姉は

変態は変態なりに僕を心配してくれて

猟奇的に愛してくれている

ってか僕って死ぬんですかね？

走馬灯の様に過去を振り返ったりして・

もうそろそろ、平凡な日常に戻りますか！

まずは姉に返答をっ！

「水虫を発病する魔法式を構築してたんです！

美人が水虫になったらギャブがたまりませんからね！どうですか？  
我が愛しのおねータマも？」

僕は有言実行タイプの人間だって姉は身をもって知ってるから牽制  
のための言葉遊び・・・

**FILE 1：当主様はおねータマ（後書き）**

たぶん、察しのイイ人は気付いたと思いますが・・・アノ作家さんの作品が好物です・・・ニヤリ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3355a/>

---

弱者のタクティクス

2010年10月13日17時26分発行